



札私幼

第151号 平成27年7月22日発行

《編集》

札私幼広報委員会

《発行責任者》

一般社団法人

札幌市私立幼稚園連合会

前田元照

札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10

札幌市生涯学習総合センター内

☎ 671-3590 FAX 671-3591

会長挨拶

一般社団法人 札幌市私立幼稚園連合会 会長 前田元照



現在の札幌市全体の出生数は14,000人、2040年には8,000人まで出生数が減少するといわれております。市内どこの園においてもいずれ園児数が半分近くまで減少する事が予想されます。もう既に札幌市とその一部を除く自治体では、園児数が激減しており、それ以上に教諭の採用がままならない状況です。札幌市においても求人票を出してもなかなか応募しに来てくれず、採用に苦勞をされている園もあるのではないのでしょうか？ どうして養成校を卒業した学生の内、3割程度しか幼稚園に就職しないのか？ どうして幼稚園教諭は比較的短い期間（6年）で離職していくのか？ これからの札私幼の一番の課題は、各法人における適切な就業形態の整備、そして給与水準（政令市ワースト1）を思い切って引き上げる事だと感じます。一般企業に引けを取らない、幼稚園教諭としてのステイタスをしっかり確立していく事だと感じます。いくら立派な理念のもとで幼児教育に情熱を注いでいても、良い人材が集まらなければその実践を行う事は出来ません。そのための新制度スタートではないのでしょうか？ はじめて、子育てが消費税増税分の大切な予算に盛り込まれている訳です。更にこの27年度より消費税が10%となり反

映される質改善後（大規模園においては+α）の予算が保証されるのです。道庁学事課で道内全ての園のシミュレーションをしたところによると95%以上の園が新制度に移行した方が運営費においてプラスになるそうです。今現在は、全国でも25%程度の園しか新制度に移行しなかったため、質改善後（大規模園においては+α）の予算が確保されましたが、いくら義務的経費（私学助成は義務的経費ではない）とはいえ、全園が新制度に移行した場合その予算がこれからも本当に保証されるのか？ 既に移行した園において施設型給付費収入の内の加算される額がまだ定まっておきませんが、本当に加算されてくるのか、事務処理が煩雑になっておりそれが新制度移行の足かせになっている等、様々な問題を抱えております。私学助成の園、新制度の幼稚園や認定こども園と各々の選択をしていかなければなりません。新制度が全てではありませんし、私学助成が全てではありません。ただ設置者・園長先生が事務を扱う職員に丸投げせずにこの制度をしっかりと理解して頂いた中で、選択をして頂きたいと思っております。

そして、これからはますます市町村との関わりが深くなっていく中で、設置者・園長先生が個々で様々な要望を行ってもなかなか意見は反映されてはいかないのが現状です。札私幼はそのための団体です。札私幼は、市内全て100%の園が加盟されている団体です。これまで様々な問題に直面しても各々の歴代会長先生、執行部で携わられていた先生を中心に会員一丸となって乗り越えそして60年の歴史を積み重ね今があるのだという事にしっかりと現執行部は感謝をし、市内全園のために汗をかいてまいり所存でございます。どうぞ宜しくお願い致します。



平成27年度代表者会議・定時総会

5月12日(火)札幌ガーデンパレスにて平成27年度代表者会議及び定期総会が開催されました。2月の代表者会議に引き続き札幌市子ども未来局子育て支援新制度担当部長 野島聡氏に「子ども子育て新制度について」現在の状況、施設型給付費、公定価格、一時預かり事業など配布資料を基にお話いただき、その後野島部長に前田元照札幌私幼会長、コーディネーターとして幌北学園 対木克彦理事長を迎え対談形式でさらに新制度について話を深め、最後は会員のみなさんからの率直な疑問・質問などに答えいただき終了となりました。

総会の前に、平成27年度の札幌幼児教育センターの職員を幼児教育センター課長 出葉充様より紹介があり本年度も充実した研修や教育相談など協力・活用体制を図っていきましょうとの意向が述べられました。



定時総会では丸谷雄輔副会長の司会進行のもと前田会長のご挨拶を頂き来賓からは、札幌市教育長 町田隆敏様・札幌市振興議員連盟会長 三上洋右様よりご挨拶いただきました。

中村みどり振興委員長より定足数の確認が行われ出席者の中よりさゆり幼稚園園長 松川厚明先生が議長に選任され議事録署名人に札幌大谷第二幼稚園園長 中里泰子先生 札幌みづほ幼稚園園長 須合國彦先生の両名の園長先生が選出されその後議事に入りました。



第1号議案 平成26年度事業報告及び決算承認の件
事業報告について各委員会より、一般会計収支計算書決算報告・災害基金特別会計収支計算書決算報告について樺沢正史専務理事より説明があり監事の札幌大谷大学附属幼稚園園長 安井美恵子先生より監査報告が行われ賛成多数で承認可決しました。

第2号議案
理事選任の件

退任に伴う理事の選任が行われ、豊平区より推薦のつきさむ幼稚園園長 押野裕子先生の就任が可決されました。

第3号その他

前田会長より新会員「こども園 ソレイユ」が幼保連携型の園として参加の主旨が述べられ承認されました。



すべての議事が終了し丸谷副会長の閉会の言葉により平成27年度定時総会を閉会しました。

平成27年度 第1回「リーダー“力”スキルアップ講座」

今年度の第1回リーダー“力”スキルアップ講座が6月18日(木)にかでる2・7にて行われました。今回は、文部科学省視学委員で、聖徳大学児童学部児童学科の教授であられる小田 豊先生を講師としてお招きし、「子どもの現状や教育要領の変化から保育方法・質の変化を考える」というテーマで講演していただきました。

小田先生は過去に3回、教育要領の改訂に携わったというご自身の経験から、過去から現在に至る学校教育における子どもの変化をお話してくださいました。2000年代の子どもの特徴として特筆すべきことは「発達障がい」であり、それまでは大勢の中で気にも留めていなかったような子どもの姿が、少子化に伴い一人ひとりに目が行き届くようになり目立ち始めたことが、注目されるようになった一因であるとのことでした。参加されている現場の先生方にも問いかけながらお話

され、発達障がいの子どものための安心感の獲得方法や適切な言葉かけについて、改めて日々の保育を見直すきっかけとなりました。

一日に一回は一人ひとりに出番のある保育を。褒めることと叱ることのどちらかに特化するのではなく、バランスよく与えること。教授学習と放任学習、そして学習者中心の学習の丁度中心を目指すこと。小田先生のお話の中には、明日からの保育のたくさんのヒントがありました。

小田先生のユーモア溢れるお話で予定していた2時間があっという間に過ぎ、残念ながら後半の「教育基本法・学校教育法の成立から子ども・子育て支援法まで」のお話は聞くことが出来ませんでした。最後に札幌市私立幼稚園連合会副会長 丸谷雄輔先生から今回の続きはぜひ次回に…というお話があり、参加された先生方からも賛同の拍手が起こりました。

設置者・園長研修会 6月30日(火) 小暮ビル6階「TKPカンファレンスルーム6A」15:30~19:30

プログラム

- ①子ども未来局第2回新制度研修会～第1回説明会の補足説明
- ②新制度検討部会研修会～移行後の現状報告と課題
- ③新制度講演会

6月30日(火)、4時間に渡って行われた設置者・園長研修会には135名が出席し、子ども未来局の説明会の後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課 専門官 佐々木亨様をお招きして行われました。

はじめに行われた子ども未来局による新制度移行説明会では、①新規事務の概要②施設型給付金について③一時預かり事業について④新制度移行に関わるスケジュールについて説明がなされました。また、事前に募集した質疑に関しても担当者の方にお答え頂きました。当日は時間の関係上全ての質問にお答え頂く事は出来ませんでした。札幌幼のホームページに、質問に対する回答が掲載していますので詳しくはそちらをご覧ください。

続いて行われた新制度検討部会研修会は、幌北学園理事長 対木克彦先生に「施設型給付幼稚園の移行前後の比較分析」について、西岡中央学園理事長 三井有希子先生に「幼保連携型認定こども園の移行前後の比較分析」についてお話して頂きました。

対木先生の講演では、私学助成の幼稚園(240名)・施設型給付の幼稚園(240名)・幼稚園型認定こども園(1号210名、2号30名)・幼保連携型認定こども園

(1号210名、2号30名、3号30名)の具体的な収支について比較分析して頂き、また、認定こども園を選択する場合の注意点や移行時の保護者への説明等について詳しく説明して頂きました。

三井先生の講演では、①新制度に移行する場合の流れについて ②幼保連携型認定こども園の子どもたちが、一体施設の中でどのように生活していくのか(デイリープログラム) ③職員の労務管理、会議の持ち方、職員間の連携についてお話して頂きました。

最後に、佐々木専門官から新制度についての全体像について簡単にお話して頂いた後、前段に質問のあった利用定員について詳しく説明して頂き、また利用者負担や公定価格の基本構造と基本額・加算額について、私学助成との正しい比較をするための試算時のポイントなど新制度移行を検討している園にとって必要な情報を重点的にお話して頂きました。

その後、札幌幼前田元照会長、中村みどり振興委員長も登壇し、文科省としての今後の見通しについて、認定こども園の施設長に対する経過措置、処遇改善加算について等、新制度に関する様々な問題や疑問点について質問し、佐々木専門官にお答え頂きました。

長丁場の研修となりましたが、7月末の平成28年度の移行調査票の提出期限前にあらゆる立場の方々からのお話を聞くことができ、出席された先生にとっても沢山の情報を収集する場となりました。



第55回政令指定都市私立幼稚園団体協議会川崎大会参加報告

会期 平成27年 7月9日(木)～10日(金)

会場 川崎日航ホテル

第55回政令指定都市私立幼稚園団体協議会川崎大会は、「すべての子どもの幸せを願って」という大会テーマのもと、全政令指定都市(20都市)から市担当部局員、私立幼稚園関係者240名が出席し、盛大に行われました。

札私幼から運営委員の前鼻理事のほか、前田会長、丸谷・藪両副会長、中村振興委員長、太田広報委員長、芝木理事、樺沢事務局長、白井P連会長、小林P連副会長の10名と、子ども未来局から渡邊昌輝子育て支援新制度担当部保育推進担当課長が参加しました。

大会日程

第1日目 7月9日(木)

1. 開会式
2. 基調講演「幼児教育の現状と課題について」
講師 文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官 佐々木亨氏
3. 記念講演
「異国での私の子育て奮闘記」
講師 声楽家 バイマーヤンジン氏

第2日目 7月10日(金) 分科会

- ・第1分科会 行政・振興
テーマ「各都市における新制度施行元年の諸問題(給付・助成処置等について)」
- ・第2分科会 経営
テーマ「新制度移行園の現状と今後の方向性」
- ・第3分科会 研究
テーマ「すべての子どもの幸せを願い保育の質を考えよう～家庭支援の観点から、各都市の研究・研修活動と相談事業を考える～」
- ・第4分科会 PTA
テーマ「子どものための幼稚園と父母の会のかかわり」
- ・第5分科会 事務局
テーマ「各団体事務局の情報交換」



「地下鉄こども美術館」開催セレモニー

地下鉄一編成車両を丸ごと広告とするAライナーとして借り、幼児の絵を掲載する「地下鉄こども美術館」という全国初の試みが5月16日(土)～29日(金)まで行われ、札私幼から札幌大谷第二幼稚園、なかのしま幼稚園、札幌白樺幼稚園、しろいし幼稚園が参加しました。

今回の催しは「こころの公園委員会」が企画し、北私幼岡澤邦幸会長、札私幼前田元照会長も委員として参加しています。開催セレモニーが15日(金)に南郷7

丁目駅ホームで行われ、秋元克弘札幌市長をはじめ委員の方々が、子どもたちと一緒にテープカットを行いました。

この企画は、「子どもたちに夢を持って欲しい」という思いと、「地下鉄に乗る大人たちに夢を思い出して欲しい」という願いから始まったものです。子どもたちの絵が車内を明るくし、市民の心も和んだようです。



園紹介 アラカルト



【インターナショナル山の手幼稚園】

教頭 荒井 恵美

インターナショナル山の手幼稚園は、緑豊かな札幌市の中心からやや西にあるところで、園舎の近くには北風公園という比較的大きな公園があり、また園舎からは四季折々にあざやかな色彩を見せてくれる三角山、手稲山が見えるなど、自然の恵みを感じられる場所にあります。

情報化・国際化がますます進む現代、時代をリードし、社会の指導的役割を果たす国際人としての人材の基礎作りを目指している本園は、バイリンガル教育を徹底した幼稚園です。現在6人の常勤の外国籍教員がおり、英語を始め国際色豊かな活動を展開しています。

具体的な教育活動としては、「生きる力」を育む学力教育を基本としており、まずは学力の基盤になるものを「子どもから湧き起こる好奇心」とし、①バイリンガル教育による国際感覚の涵養～English lessonや外国籍教員と生活をともにする環境 ②基礎体力づくり～縄跳びや一輪車、竹馬活動、及び一年間を通して専門のインストラクターによって行われるSwimming lesson ③豊かな感性を育み、知的発達の促進を促す芸術・知的教育～絵画活動、文字・かず活動、専任講師によるMusic lesson ④生きる力の育成～生活の仕方、マナー、食育活動の充実、宿泊体験学習の実施の4つの教育の柱のもと、それぞれの柱に沿った教育活動を展開しています。

また本園は、イメージンクラスとスタンダードクラスの2種類のクラスがあります。イメージンクラスは、外国籍教員と日本人教師のチームティーチングの体制をとり、よりきめ細かく子ども一人ひとりをサポートするとともに、クラス活動はすべて英語で展開されるので、英語環境が整ったクラスです。スタン



ダードクラスは、英語、音楽、運動、絵画と様々な活動が行われるクラスで、特に文字・かず活動では、生活の中の経験や気づきを大切に、筆記力や計算力も高めていきます。

一日の流れとしては、まずはインダーゴ（発見活動）で、自分の遊びを楽しみ、その中で様々な発見をしていきます。園庭や北風公園など園外で体を動かしたり、オープンスペースの園内で、ままごとやゲーム、絵画などのコーナー遊びを楽しみます。その後、体操、カーミング（モーツアルトの曲を聞いて集中力を高める時間）、Englishによる朝の会を終え、コンフェロ（集中活動）へと移行します。集中活動は、絵画や文字かず、音楽などに集中して取り組む時間です。そして、イマーゴ（習得活動）で、子ども達は理解し、獲得した知識や技能を使って、自分なりに遊びを工夫し展開していきます。

“Good Morning!” “May I have a sticker, please?” “See you tomorrow.” と英語が溢れるインターナショナル山

の手幼稚園で過ごす子ども達は、全員外国籍教員が大好きで、遊びの中では進んでかわり、どんどん英語を吸収していきます。髪の色や目の色、話す言葉が違って、同じ人間、コミュニケーションをとれば分かり合える。そんな国際理解の芽を育み、日々“本物の教育”を受けることのできる幼稚園です。



園紹介 アラカルト



【あゆみ第二幼稚園】

園長 花香 美千留

あゆみ第二幼稚園は学校法人後藤学園 あゆみ幼稚園の姉妹園として昭和54年4月に開園をし、今年で37年目を迎えました。学園は昨年40周年を迎え、2世代に渡って通園をして下さる方々も多く、地域に根付いた幼稚園となっております。学園の教育目標「あかるくげんきで素直な子」「ゆたかなところで優しい子」「みんなとなかよく遊べる子」を子どものあるべき姿ととらえ、日々活き活きとした子どもの教育を目指します。

教育の重点の3つの柱としては「心身ともにたくましくなるための体力づくりとして系列のスイミングスクールでの専門的なスイミング指導や数多くの園外保育」「豊かな心を育てるため、音感教育としてのメロディオン遊びや鼓笛隊活動」「立派な社会人となるため基本的な生活習慣・勤労感謝の心を身につけるための日々の活動や老人ホームとの交流」があります。子どもはすべて経験や体験の中で心を動かし自ら成長をしていくものだと考えているため、様々な取り組みを行っています。

園舎は住宅街であっても自然豊富な広い園庭に恵まれ、春には満開の桜の下でお弁当を食べたり、夏には木のぼりをしてグミの実採りやマルメロの真赤な花摘み、秋にはたわわに実るクルミでの遊び、そして冬には大きな雪山

でのそりすべりやかまくら作り等四季の変化を体いっぱいを感じる事が出来ます。ピカピカ泥だんご作りは毎年受け継がれる子ども達が夢中になっている遊びのひとつです。

園庭の一角には大きな畑



があり、毎年春に保護者の方と子ども達と一緒に苗や花植えをして作り始めます。その後は子ども達が自ら水やりや雑草取りをして大切に育てています。畑は自由に入出入りすることができ、朝から自分たちで育てた野菜を採り美味しそうにはおぼる姿も見られ、食育を楽しんでいます。さらに砂場に続くポンプや、大木を囲うように設置されている遊具にもこだわりを持っています。

私達職員は、「笑顔で楽しむ子育て」が子どもにとってとても大切であることを保護者に伝えて行く必要があると考えています。何気ない子ども達の日常での出来事を不定期のお便りやブログで紹介をしたり、保護者と座談会で子育ての悩みなどを話す機会を設けたり、ボランティアと称して絵本の読み聞かせや泥遊びのお手伝いなどにも参加して頂き、自分の子だけではなく多くの子と関わってもらうことで子どもの良さや関わる楽しさを実感して頂けるようにしています。そのかゝりか保護者同士のつながりである家庭教育学級への参加は100名を越え、様々な活動にも積極的に参加をし、保護者自ら幼稚園生活を楽しんでくれています。

「泣いて、笑って、けんかもして、仲直りもして…活き活きした子どもを育てる」

そんな子どもらしい子ども、心の根っこがしっかりした強い子どもが育っていくように、「保護者・職員・子ども達」が手を携え、笑顔溢れる園でこれからもあり続けたいと思っています。



幼児教育講演会

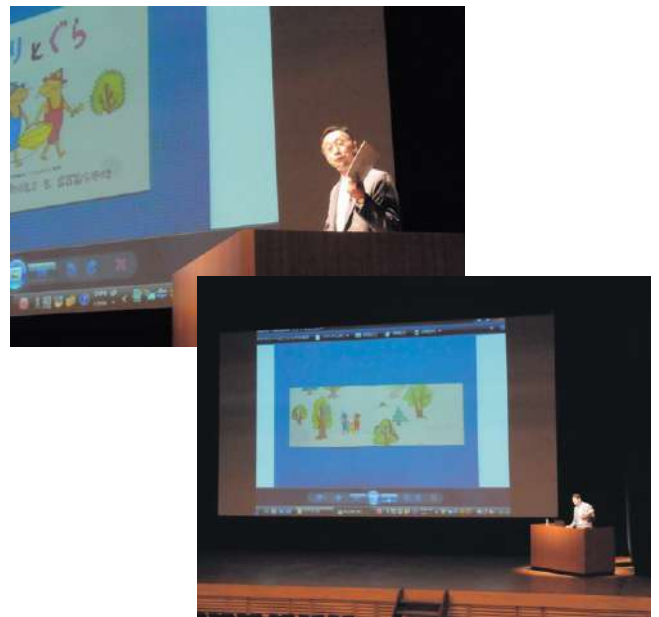
全日私幼が「こどもがまんなかプロジェクト」をスタートさせて、7年目になります。保護者に幼児教育の大切さを伝えるとともに、家庭や地域と意思を一つにしながらか一緒に子育てしていくことが、いまの幼稚園にはますます求められるようになってきました。教育委員会と札幌私幼が主催し、札幌市私立幼稚園PTA連合会と札幌市立幼稚園PTA連絡会が協力して毎年行っている「幼児教育講演会」が、6月23日(火)、ちえりあホールで開催されました。

今年のテーマは、「親子で楽しむ絵本の世界」。講師は、第一こどものとも社代表取締役としておなじみの藤田春義氏。藤田先生は、北翔大学で非常勤講師を務める一方、絵本とおもちゃの店「ろばのこ」の経営にもたずさわっています。

大きなスクリーンに絵本のページを映しながら、おすすめの絵本をいくつも紹介してくださり、メモを取りながら話を聞くお母さま方の姿も多く見られました。プライベートでは7人の子育てを経験したそうで、やはり毎日のように読み聞かせをしていたようです。昭和38年に出版された「ぐりとぐら」のように、読み聞かせをしてもらった子どもが親になったとき、同じ本を次の世代に読み聞かせしていく、これが文化なのだというお話はとても印象的でした。

参加者は150人ほどでしたが、もっと多くの保護者の方に聞いていただきたい内容で、来年度以降は、開催時間や場所など、改めて幼児教育センターと検討していく必要もありそうです。

後日談ですが、講演の翌日、藤田先生が第一こどものとも社代表取締役として本園に挨拶にいらっしゃいました。隣には、見慣れない新しい営業の方。雰囲気がよく似ているなあとと思ったら、藤田先生の7人のお子さんのご長男でした。仕事が受け継がれていくことも、文化かもしれません。



P連ふれあい交流会報告

札幌私幼PTA連合会の全体研修会である、「ふれあい交流会」が7月6日(月)、真駒内セキスイハイムアイスアリーナで行われました。開会式には、秋元克弘札幌市長、衆議院議員高木宏壽氏、札幌市教育長の長岡豊彦氏をはじめ、市議会の私立幼稚園振興議員連盟の皆様など多くの方が来賓として出席して下さいました。札幌市長に来ていただくのは初めての事であり、ご挨拶を頂いた時には会場の参加者から歓声が上がっていました。

今年は、87チーム、1264名が参加し熱戦が繰り広げられました。大会運営に携わっていただいたP連役員の皆様、ありがとうございました。なお、玉入れの上位5チームを掲載致します。順位の詳細は、札幌P連ホームページにてご確認ください。



玉入れ大会 上位5チーム

優勝	白石区	しろいし幼稚園	ラビット
準優勝	南区	第2もなみ幼稚園	チームウメ
3位	北区	新琴似幼稚園	しんことりA
4位	北区	茨戸メリー	アンパンマン
5位	白石区	札幌白樺	サツシラドリーム1



連台会日誌

札幌市私立幼稚園連合会の主な動き
(3月以降・予定を含む)

4月10日(金) 決算監査	7月9日(木) 政令指定都市私立幼稚園団体協議会川崎大会 ～10日(金)
4月15日(水) 理事会・総務委員会	7月28日(火) 新規採用教員宿泊研修(山の家) ～31日(金)
4月20日(月) 広報委員会	7月30日(木) 政令指定都市私立幼稚園団体協議会次世代 ～31日(金) 熊本研修会
4月23日(木) 秋元市長「札幌の幼児教育を考える会」	8月6日(木) 第64回全国幼児教育研究大会北海道大会 ～7日(金) (主催 全国幼児教育研究協会)
5月12日(火) 定時総会・理事会・総務委員会・代表者会議	8月7日(金) 札幌ようちえん・こどもえん・にこにこフェ ～10日(月) スティバル
5月14日(木) P連定期総会	8月27日(木) 広報委員会
5月27日(水) 研究委員会	8月29日(土) 札幌ようちえん・こどもえん・にこにこフェ スティバル
// 市議会会派補正予算勉強会	②幼稚園・認定こども園の遊び体験 (市立大通高校)
5月29日(金) 第1回札幌市新制度説明会・補助金説明会	9月26日(土) 札私幼・第2回就職フェア (札幌コンベンションセンター)
6月8日(月) 広報委員会	11月6日(金) 教育研究大会(札幌市民ホール他) ～7日(土)
6月9日(火) 子ども子育て支援新制度検討部会	
6月22日(月) 研究委員会	
6月23日(火) 幼児教育講演会(ちえりあホール)	
// 理事会・総務委員会	
6月24日(水) 振興委員会	
6月30日(火) 第2回札幌市新制度説明会(小暮ビル)	
// 設置者・園長研修会(小暮ビル)	
7月6日(月) P連ふれあい交流会(真駒内アイスアリーナ)	
7月8日(水) 広報委員会	

就職フェア 開催のお知らせ

平成27年度
「札幌の私立幼稚園 就職フェア」
～幼稚園の先生になりたい!～

主催 一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会
日時 12時30分～15時30分(予定)
場所 札幌コンベンションセンター 大ホールC
幼稚園の参加方法

- ①ブース参加(希望園)
- ②求人票掲示(希望園)
- ③パネルによる幼稚園紹介(全園)

※詳しくは、7月上旬に発送致しました
開催案内をご覧ください。



年間の園行事の中でも取組み期間の長い大行事「運動会」が間近に迫ってきました。一人ひとりの子どもが、意欲的にそして自主的に活動を楽しんでほしいとの思いから、先生方の努力は、日々続いています。

そんな中、先週「総練習」が行われました。太陽の陽射しに負けないくらいの輝きを見せてくれたのが、年長組の子どもたち。当園では年長組ならではの種目としてよさこいの踊りと全員で走るリレーがあります。特に、これらの競技に取り組む年長組の姿は、見る人の心に感動を与えてくれるのです。思わず自然に周りを笑顔にしてしまう「笑顔いっぱい生き生きとした姿」も素晴らしいのですが、年長児の「それぞれの真剣な気持ちが伝わる健気でひたむきな姿」は、人の心を「じーんとさせる」のです。人の心

を動かすということは、簡単に出来るものではありません。しかし、あの年長組の姿は、おそらく多くの人の心に何かしら届けてくれるものなのです。どれだけ上手にできるか、どんなに立派かという表面上の姿だけではなく、それに取り組む一人ひとりの姿勢や気持ちがどれだけ伝わってきたか、なのだと思っています。もちろん子どもたちは、そんなことを考えながら活動している訳ではありません。子ども自らが「やろう!」「がんばろう!」という気持ちを持って取り組んでいるからこそ、自然に表れてくる姿なのだと考えます。

大人が子どもに押し付けたりやらせる保育ではなく、子どもの視点に立ち子ども自らが「やりたい!」と思える保育。この原点を常に意識しながら、保育や行事を組み立てていくことをこれからも大切にしたいと感じています。
(広報委員 押野里美)

